



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	大槌ゆかりの方に伺う『今後の10年へ向けてコロナ禍を乗り越えるために』：特別書面インタビュー：第8回
Author(s)	山村，高淑；大槌町産業振興課商工観光班
Description	大槌町Webサイト上の公開ページへのリンク https://www.town.otsuchi.iwate.jp/gyosei/docs/437863.html
Issue Date	2021-12-14
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/83534
Type	other
File Information	interview_211214.pdf





【特別書面インタビュー】大槌ゆかりの方に伺う 『今後の10年へ向けてコロナ禍を乗り越えるために』

国立大学法人北海道大学
観光学高等研究センター

やまむら たかよし

山村 高淑センター長

<山村高淑センター長 略歴>

北海道大学教授。1971年、静岡県浜松市生まれ。博士（工学）。研究分野は観光学（観光開発論、コンテンツツーリズム論）。主な著書に『コンテンツツーリズム～メディアを横断するコンテンツと越境するファンダム』（2021年、北海道大学出版会）、Contents Tourism in Japan（2017年、Cambria press）、『アニメ・マンガで地域振興』（2011年、東京法令出版）、『世界遺産と地域振興 中国雲南省・麗江にくらす』（2007年、世界思想社）などがある。（一社）大槌町観光交流協会コンテンツビジネス戦略事業部会特命顧問。

物ではないソフト（コンテンツ）にも 大槌町の大きな魅力と可能性を感じます

国内で新型コロナウイルスの感染が広がり始めて1年が過ぎます。この1年はどんな日々でしたか？

仕事の仕方が大きく変わった試行錯誤の一年でした。教育や研究の現場では、特に「オンライン化」と「少人数化」の二点で大きな変革が続きました。コロナ以前から見れば、人と人との直のふれあいが無い、大人数で集まらない、というデメリットがあり、対面かつ大教室方式をとってきた大学にとっては非常にづらい状況であることには間違いありません。

しかしその一方で、学生さんの中には「大人数が苦手だったので、オンラインになってから自分の意見が言えるようになった」という意見の方も多くいるのが事実です。

また、オンライン化することで無駄な会議は減りましたし、会議や授業の配布資料もデジタル化され、予算の削減にもつながっています。もちろん仕事柄、現地取材がなかなかできないのは非常に辛いですが、こうした変革のプラス面も見据えつつ、悲観的にならないよう、自分なりの教育・研究スタイルを築いていきたいと考えています。

こうしたときに大事にしていること、大事だ
と
思
っ
て
い
る
こ
と
は
何
で
す
か
？

自分にとって大切なもの、かけがえのないものは何なのか、悔いのないように考えなければと痛感しています。この夏、祖母が他界しました。養護老人ホームで100歳を迎えたのですが、コロナ禍でお祝いの面会に行くこともできず、その後体調を崩した後も会えずにお別れとなりました。コロナ禍で会えなくなる前に、なぜもっと一緒に時間を取らなかったのだろう、なぜもっと思い出を作ってあげられなかったのだろうと、いまさらながら悔いています。コロナ禍で大切な人との別れがあったり、疎遠になったりする中で、本当に真剣に、自分にとって大切なものについて考えなければならぬと感じています。

考えてみれば当たり前のことだったのかも知れませんが、家族や友人、地域の人たちとのつながり、自分の趣味や夢……あらためてこうしたことの大切さを考えています。その一歩ではないですが、この一年は、二人の小学生の息子と一緒に、毎晩必ず食事をしながら1時間半かけて共通の趣味であるアニメを見るようにしています。

コロナ禍でのエンターテインメント、観光、
文化芸術のあり方とは？

次のような非常に興味深いお話を伺いました。10年前にアニメの舞台となった、とある「アニメ聖地」に、コロナ禍で、今までの層より随分若いファンからの問い合わせが増えていたそうです。コロナ禍で映画やアニメといったコンテンツのネット配信が爆発的に普及したことで、今流行している作品から、例えば同じ制作会社の過去の作品をたどって見るという機会も増え、若い世代と地域との新たな接点が生まれているのだそうです。

巣ごもり需要の思わぬ影響なわけですが、おそらく、デジタル化、ネットでのコンテンツ流通、そうした中での課金・収益システムの構築、という流れはコロナ後も止まらないように思います。コロナ禍の問題点を数え上げたらきりがありませんが、そこから生まれている新たなチャンスも必ずやあると思います。おそらくデジタルやネットの利点と、リアルな体験の利点、その両方をどのようにハイブリッド化できるのか、この辺りがエンタメ、観光、文化芸術の今後のあり方の鍵になるように考えています。

大槌町との思い出や関係のきっかけを教えてください。

アニメーション等のコンテンツを活用した地域活性化に関するお仕事を各地でさせて頂く中で、大槌の有志の方が手掛けられている『曲花村役場（仮）』というメディアミックス作品の企画と出会ったのが、私と大槌町との出会いでした。イラストレーターの兎塚エイジ先生による同企画のキャラクターデザインが素晴らしく、その造形にひとめぼれでした。

それがきっかけで、おおつちバラエティショーの皆さんと仲良くさせて頂き、おしゃっちでの公演や軽井沢公演にもお邪魔しました。中学生からおじいちゃんおばあちゃんまで舞台上がって様々な演目が展開されるバラエティショー！まさに子供の頃、家族でちゃぶ台を囲んでゴールデンタイムに見ていた昭和のテレビのバラエティ番組そのものでした！「心の復興」というバラエティショーの目標も素晴らしいと思いました。

そんなこともあり、微力ながら是非とも大槌町のお手伝いができればと、今に至ります。私が北海道や埼玉県で関わっているイベントに、大槌町の皆さんにご参加頂いたり、相互交流もさせて頂きました。こうして地域と地域の横のつながりが生まれたことは、私にとっても、すごく有り難いです！嬉しいことです。改めて大槌町の皆様に感謝申し上げます！

大槌町ではふるさと納税や、通信販売サイト「大槌孫八郎商店」で、町特産品のPRに務めています。大槌の特産品と言えは？

大槌町には、『曲花村役場（仮）』や『バラエティー家族』といった物語（コンテンツ）の企画があり、兎塚エイジ先生による素敵なキャラクターがすでに設定されています。そしてそうしたキャラクターがおおつちバラエティショーの現実の舞台での俳優さんにリンクして参りました。いろいろな地域を仕事で拝見して参りましたが、ここまでオリジナリティーがあり質も高い企画・キャラクターをお持ちの地域はそうそうないと思います。特産品という言葉が適切かはわかりませんが、こうした、物ではないソフト（コンテンツ）も大槌町の非常に重要な資源だと思います。

実は『バラエティー家族』のキャラクターであるメッツ五平さんが個人的に大好きで、モデル（？）の方とも仲良くさせて頂いております（笑）。こうしたフィクションの世界と現実の世界が入り混じる楽しさは、私にとって大槌町にお邪魔する楽しみの一つになっています。

今後、大槌町で、あるいは大槌町民と一緒に
挑
戦
し
て
み
た
い
こ
と
は
？

日本の地方からダイレクトに世界に情報発信するコンテンツを、大槌町の皆さんと一緒に制作してみたいです！大槌の素敵なコンテンツを多言語で、東京発ではなく、大槌発で世界に発信できたら素敵だなあと妄想しています。おおつちバラエティショー傑作選に多言語で字幕を付けたり、『曲花村役場（仮）』や『バラエティー家族』に外国語で音声を入れたり！

実は日本の地方には面白いお取り組みをされている方がたくさんいらっしゃるの、そうした方々をつないで、これからどうしたら日本の地方はもっと面白く楽しくなるのか、アイデア出しをするような、肩ひじ張らないYouTube番組も制作してみたいです！

本年～来年の活動予定を教えてください。

コンテンツツーリズムに関する英文書籍の第三弾を2022年3月に英国から出版予定でして、目下最終編集作業中です！日本の各地の取り組みを世界に発信するため頑張ります！その後はコロナの影響でのびのびになっている取材活動を再開したいです。実は三国志関連のコンテンツと旅についての取材が中断しております、再び中国取材に出かけられる日が来ることを祈る毎日です。

大槌町民へメッセージをお願いします。

2017年に初めて大槌町にお邪魔して以来、訪れる度に皆様に温かく接して頂き、多くの元気を頂いております。本当にありがとうございます。世の中の先行きが全く不透明な中、不安ばかりが頭をよぎってしましますが、大槌の皆様に教えて頂いた「心の復興」という言葉と皆様のお取り組みが、私にとって強い励みになっております。どこまで皆様のお力になれるかわかりませんが、今後は是非いろいろと一緒させて頂ければ幸いです。何卒宜しくお願い申し上げます。

（令和3年12月9日書面にてインタビュー）
企画・編集 大槌町産業振興課商工観光班
編集協力 （一社）大槌町観光交流協会